

Yusuhara a Home from Home (第 29 部)

2 つの国の高速道路 (Driving in Two Countries)

梶原学園 ALT : スティーヴン・ウダード

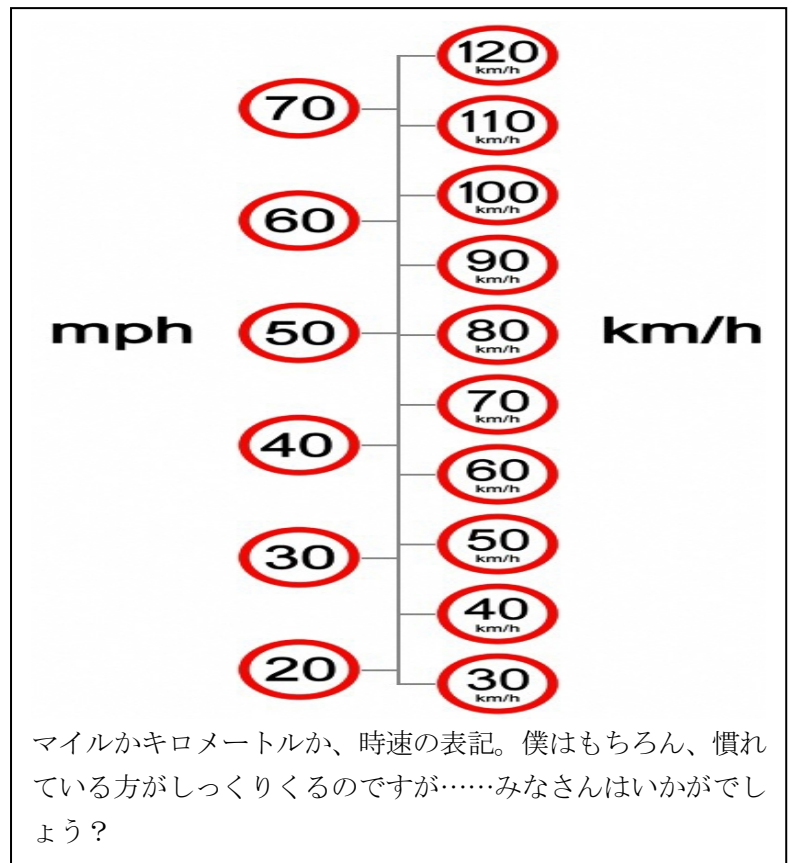
つい最近、高知市内に出張する機会があったのですが、それをきっかけに、ふと道路事情のことを考えました。僕は17歳の時に車の運転を始めましたから、イギリスで8年、そして日本で5年の経験を持つドライバーということになります。多少の違いは存在しますが、何か全く新しいことを身につける必要はありません。運転そのものは、イギリスも日本も大した違いはないので、イギリスの運転免許を持っている人なら、特別の試験なしで日本国内での運転免許を取得できますし、逆（日本→イギリス）もまたしかり、です。

では高速道路の違いは、と言うと……日本で5年間運転した経験からすると、少々残念に思っていることがあったりするのですが、それについてちょっと説明をさせてください。まずは速度制限です。少なくとも高知県内では、他の国と比較した場合、イライラするくらいに厳しめです。ドイツのアウトバーンは上限がありませんが、イギリスの場合はちゃんと存在しています。それでも時速 70 マイル、キロでいくと時速 113 キロです。けっこう違いますよね！以前イギリスに帰省した時、この最高速度のギャップにすぐには慣れず、すごく怖い思いをしたのですが、こうした恐怖心は、僕の2つ目の不満とも結びついています。それはなにかと言うと、車線の数です。僕が利用する高知道の区間は、対面2車線が基本で、追い越せる機会がかなり限られています。イギリスの場合、片道3~5レーンあるので、そう考えると両方の中間くらいがちょうどいい車線数になるのかもしれない。そして最後は高速料金です！最初に、最近高知へ出張に行ってきたとお話しましたが、その時に出張用のETCカードを借りて、初めて利用しました。もう何もかもがめちゃくちゃ簡単で、僕も自前のカードを持っていれば……と思ったほどでした。他方、イギリスでは高速道路は無料です。好きな時に乗って、好きな時に降りてかまいません。ただし全くない、というわけではありません。それでも、ロンドンの渋滞税*を除けば、通行料を支払うのは大きな川を跨ぐような、特別な橋梁やトンネルに限られています。

ちょっと不満を言わせてもらいましたが、この国で、そして高知という県で、僕は間違いなく楽しんで車を運転しています。騒がしいこともありませんし、景色もすばらしいですから。あとはもうちょっとだけ、スピードを出させてください。時々でいいですから……。

ちょっと不満を言わせてもらいましたが、この国で、そして高知という県で、僕は間違いなく楽しんで車を運転しています。騒がしいこともありませんし、景色もすばらしいですから。あとはもうちょっとだけ、スピードを出させてください。時々でいいですから……。

*渋滞税(congestion charge) : 2003年、ロンドン中心部の渋滞緩和を目的として導入されました。特定の曜日と時間帯に対象となるエリアを通行する車は、1日ごとに決まった金額を支払う必要があります。



(日本語訳 : 町 ALT 森竹弘喜)